

## 課題

高校生・大学生に対して薬物乱用防止を啓発するために効果的なグッズの考案と、効果的な啓発活動。

※グッズの作成予算は1個あたり100円程度とし、啓発活動は予算を掛けずに実施できる企画、あるいは費用対効果を意識した企画をすること。(著名人などを起用する企画は不可とします)

### <学生からの提案施策 ①>

#### 【グッズの提案】

原価約50円の付箋。付箋の一番上を星が丘テラス内での買い物用の50円引きクーポンにする(付箋製作費の余り)。

#### 【啓発活動】

啓発動画を作成し、授業前などに視聴してもらう。内容は違法薬物の恐怖を伝えるもの。クイズなどを使って、正解した人に付箋を配布。啓発動画は、淑徳大学創造表現学部へ依頼。

#### 【ポイント】

広く社会とかかわる機会を持つ高校生・大学生に啓発することで違法薬物との関わりを未然に防ぐ。



### <学生からの提案施策 ②>

#### 【グッズの提案】

Twitterのアカウント名「@SSA.Chikusa.」を表示したステッカー

#### 【啓発活動】

「@SSA.Chikusa.」という名前のアカウントを作成し、Twitterで薬物の正しい情報を発信する。

#### 【ポイント】

ステッカーをお店のレジ付近や学校の黒板や時計付近に貼ることで人の目につきやすくする。





### <学生からの提案施策 ③>

#### 【グッズの提案】

原価約 40 円の袋止めクリップ。

#### 【啓発活動】

千種区内の大学の学生に薬物防止講座の作成を依頼。複数大学の学生が協力して作成した講座を、高校に訪問してプレゼンテーションする。

#### 【ポイント】

学生同士の交流により、薬物の危険性への理解が深まり、薬物防止の意識が高まる。



### <学生からの提案施策 ④>

#### 【グッズの提案】

シンプルなデザインの定期入れ。

#### 【啓発活動】

Instagram のストーリー広告、投稿広告を使ってグッズを宣伝。

#### 【ポイント】

通勤・通学に電車を利用する人が多いので定期入れ。

Instagram は、若者に多く使われている SNS なので活用。



### <学生からの提案施策 ⑤>

#### 【グッズの提案】

生徒手帳カバーを作成。カバーの裏表紙に、①薬物防止マニュアル②QR コード③薬物乱用防止相談窓口を記載する。サイズは、標準サイズ（縦 108mm、横 73mm）。原価は、約 150 円。

#### 【啓発活動】

生徒手帳カバーに QR コードを記載し、薬物防止動画の視聴を促す。

#### 【ポイント】

生徒手帳カバーであれば、捨てられる心配がない。また、常に持ち歩くので目につきやすい。



### <学生からの提案施策 ⑥>

#### 【グッズの提案】

消しゴム

#### 【啓発活動】

Instagram で啓発活動。薬物中毒者の悪循環をイラストで表現したり、薬物使用者の使用前後の画像を見せる。

#### 【ポイント】

消しゴムであれば、捨てないし、学生同士使う人が多い。繰り返し目にするので記憶に定着する。

Instagram は 10 代～20 代で人気が高く利用者数も多い。



### <学生からの提案施策 ⑦>

#### 【グッズの提案】

消毒液入りスプレーボトルの作成。

スプレーボトルの原価約 40 円、消毒液の原価約 20 円、シール（啓発コメント入り）の原価約 20 円。

#### 【啓発活動】

学園祭でウォークラリーを開催。歩きながら、薬物に関する問題に答えるレクリエーションゲームをする。

#### 【ポイント】

スプレーボトルは学園祭の景品として配布。若者が集まる学園祭で興味を持たれるイベントを開催。

# 提案施策の活用方針

学生の皆さまから提案のあった施策を、以下のとおり反映することを検討しています。

## 1 薬物乱用防止啓発活動に活用ができそうな内容

### (1) 啓発グッズ

#### 【学生からの提案】

学内の学生限定、学園祭などのイベント参加者向け、また、次項に述べる SNS 等の広報媒体の閲覧者向けなどを想定し、啓発への参加者の特典として、薬物乱用防止を呼びかける啓発品が提案された。一般的に携帯及び利用される啓発品とすることにより、機会あるごとに見てもらえることが出来る。

#### 【実際に行うなら】

定期入れ、生徒手帳カバー、消しゴム、附箋、袋止めクリップなど、具体的な啓発グッズが多数提案された。費用面で 1 個 100 円程度という条件を提示したが、これらのアイデアの内実際採用し、今年度学生に配布したのは、付箋紙となった。提案の定期入れ、生徒手帳カバーについては大幅に想定を超える作製費用を要し、不採用とした。費用対効果の観点から実際のアイデアとしては限定的となったが、常時携帯の機会の高いものであり、採用できればと思う。

啓発グッズ 完成品



啓発グッズ 学生提案内容



## (2) SNS等の広報媒体による情報発信

### 【学生からの提案】

薬物乱用防止についての情報発信を、若者が使用する割合の高いSNS等の広報媒体で、媒体に応じた効果的な方法で行うことが提案された。先述の啓発グッズへの、アクセス先の明示（アドレス又はQRコード）についても具体的に提案された。

### 【実際に行うなら】

啓発グッズに採用したものは、今回は本市のホームページへのQRコード等となったが、若者向けにはTwitter、Instagramなどが効果的と思う。また、広報内容は、当然に著作権保護違反にならないように配慮する必要がある一方で、若者に受け入れられるものが求められ、専門業者への委託も選択肢として考慮すべきと思う。

## 2 その他のわかもの向けに活用できそうな内容

### (1) ネットワークを活用した啓発活動の展開

#### 【学生からの提案】

啓発方法として、学園祭の来場者へクイズ形式やウオークラリー方式により行うことが提案された。また、配布した啓発グッズに地元商店街での買い物用のクーポンを付けるアイデアがあった。他に、千種区内の複数大学が連携し、薬物乱用防止講座を高校向けに企画、実施する案もあった。

#### 【実際に行うなら】

従前からあるアイデア、新しい視点のアイデアとさまざまであるが、上手に進めていけば、地元での活動の広がり、すべての大学、高校を巻き込んだ活動の広がりが期待できるものである。

当区が行う場合、費用支出の点、学校組織づくりの点で、整理すべき課題をまずは検討することから始めたい。

ご協力いただき、誠にありがとうございました。

